ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権(インカレ)
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

全国選抜大会について

全国高体連ハンドボール専門部委員長・
(財)日本ハンドボール協会理事　大川洋司

第１回の全国高校選抜大会が昭和５３年３月、愛知県体育館において開催され、各ブロックから１チームと開催地１チームの、男女共１０チームの参加で開催されました。

その後、第４回大会が１６チーム、５回大会が２４チーム、６回大会から２５チーム、１１回大会から２６チーム、１８回大会から３２チーム、２２回大会から３６チーム、２４回大会からは現在の４０チームと変化してきました（記念大会は除く）。

また、開催地においても愛知県を皮切りに、２１回大会まで（山口県で２回行う）開催し、選抜大会のメッカとして定着しておりました。しかし、チーム数の増加に伴う開催地の負担等が多くなり、２２回大会からは、近畿・関東・東海で持ちまわり開催すること、また、記念行事等においては地方開催も出来るとの協会の決定をいただき、現在は、市制記念行事として富山県氷見市において開催しております。

過去に、開催地変更について、高体連の独走で、愛知県協会に不愉快な思いをさせてしまい、この紙面を借りてのお詫びと、それまでの大会開催にあたってのご努力に対して感謝申し上げます。今後の開催予定地は、氷見市の後、関東で３年間は決定しております。以後、記念大会にあわせて開催希望する県もあり、開催地の問題は今のところクリアーしております。

今後、最大の課題が参加チーム数とブロック割り当て数であります。高体連専門部において、各都道府県の要望等を伺いながら、毎年検討を重ねておりますが、すべて要望通りには出来ません。参加チーム数について、専門部の目標であった各都道府県１チーム参加も、いろいろな障壁があり実現に至っていません。また、参加チーム数の減を望む意見も出ており、参加チーム数の決定には苦慮しております。

ブロックの割り当数については、基本的に各ブロックの協会登録数で決定しております。ただし、ブロックの地域性も考慮し、強化を前提に普及も考えた選び方になっております。

今月、第25回全国高校選抜大会が、富山県氷見市で、昨年に続き開催されます。氷見市はハンドボールにかける情熱は他に類をみない熱狂的な土地であり、県ハンドボール協会や県高体連の先生方、また、氷見市職員関係者の協力により開催されます。氷見市ふれあいスポーツセンターをはじめ、すばらしい体育館で、プレー出来る高校生は幸せを感じるでしょう。そして、高校生らしい、若さあふれる戦いを展開し、ますます、全国高校選抜大会が発展し、選手のレベル向上につながることを期待します。

第10回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会

1点を争う好ゲームが続く 男子は茨城県選抜、女子は東京都選抜が優勝

大阪中学校体育連盟ハンドボール部専門委員長　逢阪静男

第10回記念大会として「JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会」が12月25日より27日まで堺市家原大池体育館と金岡公園体育館で開催された。開会式には、全国各地のブロック予選を勝ち抜いた男女各11チームと、開催地大阪選抜の男女2チームを加えた計24チームが参加した。

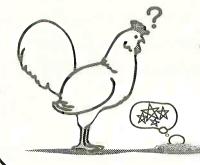
開会式は堺市登美丘中学校吹奏楽部の演奏で、前年度優勝チームの男女沖縄選抜を先頭に各チームの入場行進から始まり、大阪府選抜の永谷茂之君が元気良く選手宣誓を行った。また第10回大会を迎えるまでの「大会功労者」の表彰が行われた。表彰者は次のとおりである。

個人の部では、前堺市長・幡谷豪男氏、元大阪ハンドボール協会会長・神田清氏、元大阪ハンドボール協会常務理事・溝渕芳夫氏、元堺市ハンドボール協会理事長・西村稜治氏、元大阪中体連ハンドボール部専門委員長・今井修一氏、元全国中体連ハンドボール部部長で故人の真田元氏が、また団体では堺仁徳ライオンズクラブ、朝日新聞社が、大阪ハンドボール協会会長・幸田良一氏より表彰授与された。

予選リーグでは接戦の試合が多く、特に男子のAブロック富山県18－18奈良県、Bブロック沖縄県21－18岩手県、Cブロック愛知県15－15大阪府、Dブロック東京都28－25山口県が、また女子でも沖縄県17－15三重県、茨城県19－16香川県、兵庫県17－16茨城県、Cブロック大阪府15－15福島県、福井県17－13大阪府、など接戦のゲームが展開された。

準決勝、決勝戦ではさらに期待通りの緊迫した好ゲームが続いた。

女子では東京都対福井県の試合で前半から福井がミスをして東京に走られるパターンが続いた。東京は速攻とポストプレーで確実に得点を重ね、後半の福井の退場が出た時に一気にスパートして勝利を決定づけた。また、沖縄と兵庫の試合は、沖縄のエースの儀間の予定通りの活躍と兵庫のミスからの得点が試合を左右した。

一方、男子の準決勝は夏の全国大会の覇者と富山県と茨城県チームとの戦いとなった。茨城選抜16番2年生の塚本のシュートで先制したが、富山も5番エースの清水のシュートで追いつき一進一退のゲームが続き、前半は富山選抜

の１点リードで終了した。後半に入って茨城選抜２番小川のロングシュートが決まり接戦の試合を制し、決勝戦へとコマを進めた。また、愛知対東京の試合は、前半４分愛知選抜の３連続得点で引き離すかと思われたが、東京選抜も３連続得点で追いつき、10－９と愛知がリードで前半終了。後半に入っても愛知選抜の４連続得点で引き離すかと思えたが、東京もしぶとく食い下がり、終了前に３連続得点で追い上げたのだが、愛知選抜のＧＫ松沢の正確なロングパスとサイドプレーヤーの新井のがんばりが勝利に結びついた。

決勝戦女子では、東京都対沖縄県が戦い、前半は沖縄選抜の大城夕貴、新城さゆりらの得点で13－６と大きくリードして勝負あったかと思われたが、後半、東京都選抜の高橋恵、平賀夕貴らの連続得点でどんどん追い詰め、残り５分で同点に、ラスト２分で逆転に成功。これで終わるかと思われたが、終了20秒前さらに東京都選抜の高橋のシュートで同点に追いつき、延長戦に縺れ込んだ。延長戦に入っても一進一退の試合が続き、３－３で第二延長に突入し、第二延長でも沖縄選抜の新城、大城、儀間らの得点でリードしたが、東京都の高橋の連続得点と終了前に大阪の得点でまた追いついた。そして７ｍＴコンテストに。ここで１－３で東京都選抜が大逆転の末、夏のリベンジを果たして初優勝をもたらした。

一方、男子決勝は、茨城選抜対愛知選抜で行われた。高さとパワーに勝る茨城とＧＫからの速攻を武器とする愛知の対決。前半はお互いに持ち味を出しての互角の戦いを展開した。後半になって茨城が愛知のオールマンツーを突破して、高橋、松見の活躍で一気に差を広げ、４年ぶり２度目の優勝となった。

この大会を振り返って、各試合１点を争うゲームが多く、これは10回目の大会ということもあってか、各ブロック共このＪＯＣ大会の主旨である広い地域からの優秀な選手の発掘が次第に定着してきたのではないかと思われる。なお、今大会開催にあたり、日本協会、大阪協会、大阪高体連、堺市連盟をはじめ、全国中体連各ブロック長、近畿中体連専門委員大阪中体連の先生、生徒のみなさまのご協力があったからこそ、この大会が大成功に終了でき、第11回大会以降もこの堺市での開催が決定されたと思います。

全国のハンドボーラーのみなさま、第11回大会に向けて是非、努力して頂き、またこの堺でよいプレーを見せてください。

第10回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会　試合結果

男子予選リーグ（堺市家原大池体育館）

Aブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
富山県	18	12－10 6－8	18	奈良県
三重県	16	8－7 8－6	13	奈良県
富山県	26	12－7 14－8	15	三重県

Bブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
茨城県	25	10－9 15－9	18	岩手県
沖縄県	21	9－11 12－7	18	岩手県
茨城県	31	14－12 17－9	21	沖縄県

Cブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
大阪府	24	13－5 11－8	13	香川県
愛知県	31	17－5 14－6	11	香川県
愛知県	15	9－8 6－7	15	大阪府

Dブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
東京都	41	22－6 19－6	12	北海道
山口県	34	22－4 12－11	15	北海道
東京都	28	17－9 11－16	25	山口県

女子予選リーグ（堺市金岡公園体育館）

Aブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
沖縄県	38	21－3 17－6	9	北海道
三重県	36	21－8 15－5	13	北海道
沖縄県	17	11－7 6－8	15	三重県

Bブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
茨城県	19	10－9 9－7	16	香川県
兵庫県	15	7－6 8－4	10	香川県
兵庫県	17	6－10 11－6	16	茨城県

Cブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
大阪府	15	7－11 8－4	15	福島県
福井県	22	12－9 10－9	18	福島県
福井県	17	9－5 8－8	13	大阪府

Dブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
愛知県	22	13－7 9－7	14	岡山県
東京都	38	22－4 16－5	9	岡山県
東京都	30	17－3 13－11	14	愛知県

決勝トーナメント（堺市家原大池体育館）

男　子

A．富山県選抜
B．茨城県選抜
C．愛知県選抜
D．東京都選抜

女　子

A．沖縄県選抜
B．兵庫県選抜
C．福井県選抜
D．東京都選抜

男　子	チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
準決勝	茨城県	17	8－ 9 9－ 6	15	富山県
〃	愛知県	21	10－ 9 11－10	19	東京都
決　勝	茨城県	23	9－ 8 14－ 8	16	愛知県

女　子	チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
準決勝	沖縄県	24	13－ 5 11－ 6	11	兵庫県
〃	東京都	27	11－ 8 16－11	19	福井県
決　勝 第　一 延　長 第　二 延　長 7ｍTC	東京都	28	6－13 13－ 6 2－ 2 1－ 1 1－ 1 2－ 2 3－ 1	26	沖縄県

順　　位

男　子		女　子	
優　勝	茨城県選抜	優　勝	東京都選抜
準優勝	愛知県選抜	準優勝	沖縄県選抜
第三位	富山県選抜	第三位	兵庫県選抜
〃	東京都選抜	〃	福井県選抜

※男子の茨城県選抜は4年ぶり
　2回目の優勝
※女子の東京都選抜は初優勝

表　彰　選　手

	男子		女子
オリンピック有望選手	小川　雄也（茨城県けやき台中） 木村　雅俊（奈良県三郷中）	オリンピック有望選手	本年度は、該当者無しとする。
最優秀選手	小川　雄也（茨城県けやき台中）	最優秀選手	高橋　恵（東京都鹿骨中）
優秀選手ＣＰ	野村喜亮（山口県住吉中）	優秀選手ＧＫ	内間小百合（沖縄県仲西中）
〃	夏山陽平（大阪府豊中第13中）	ＣＰ	松下実沙子（東京都鹿骨中）
〃	沖村昭宏（東京都中）	〃	大阪絵里子（東京都平山中）
〃	清水翔太（富山県中）	〃	平賀友貴（東京都鹿骨中）
〃	高山義邦（愛知県高杉中）	〃	儀間晴香（沖縄県仲西中）
ＧＫ	松沢太郎（愛知県春日井知多中）	〃	石立真悠子（福井県明倫中）
ＣＰ	塚本博樹（茨城県けやき台中）	〃	佐野有梨（兵庫県大久保北中）

第10回
JOCジュニアオリンピックカップ・ハンドボール記念大会を振り返って

(財)日本ハンドボール協会元常務理事・普及委員長
京都府ハンドボール協会副会長　小西博喜

第10回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ・ハンドボール大会の記念祝賀会の案内が大阪ハンドボール協会より届き、あらためて「十年ひと昔」の感を抱くが、本大会誕生の当時を振り返り、本誌の記録として協会資料にしたい。

平成４年度「ＪＯＣジュニアオリンピックカップ大会」の通達文書が平成４年１月７日付で、(財)日本オリンピック委員会から(財)日本ハンドボール協会へ届いた。主旨は「選手強化ジュニア対策の一環として、ジュニア競技大会の質的向上を図り、将来、オリンピック、世界選手権等において活躍が期待できるジュニア選手の発掘・育成を目的とする」というもので、このことは今も変わってはいない。

当時、開催に名乗りをあげた種目は、柔道、カーリング、射撃、ハンドボール、スキー、バスケット、さわやかバレー、漕艇の８競技であった。日本ハンドボール界のジュニアスポーツ選手のイメージアップと競技力向上を図るためにはどうしても実現したい最高の大会であった。早速、(財)日本ハンドボール協会全国理事会において、平成４年度事業計画の追加承認を得たあと、平成４年11月30日付文書で全国都道府県協会長宛に協力依頼文を送付した。そして、全国傘下の中学校ハンドボール部専門委員長宛にも協力を依頼した。同時に全国９ブロック理事には開催主旨にそって取りまとめを依頼した。

さて、本大会の実施計画をいつ、どこで、どこの協会に引き受けてもらえるのか、課題に直面したが、この作業は時間的にも待ったなしの同時進行で交渉を進めるしか方法はなかった。まず、開催地として、なみはや大阪国体を前にした大阪ハンドボール協会(元)会長神田清氏に白羽の矢を立て堺市へ走った。ジュニア育成の主旨を説明し、同協会(元)理事長東嘉伸氏との協議の末、即座に承諾を得るスピード決定であった。さらに、(財)日本ハンドボール協会に未加盟で独立運営の大世帯２万人のハンドボール中学生を抱える(財)日本中体連ハンドボール部(元)専門委員長故真田元先生への説得が残された課題となった。そのためには、全国９ブロック中体連専門委員長の承認が必要な手続きである。しかし、(財)日本中体連ハンドボール部は(財)日本ハンドボール協会に加盟していない現状であり、至難のワザに思えたが、直接の説得以外には見当たらなかった。その時から日夜、電話とＦＡＸ攻勢の全力投球が始まった。また、大阪協会(元)会長神田清氏と堺市の国体準備委員会事務局との協議、堺市長への要請に手落ちがないよう背水の陣を引く指導を受けた。つまり、国体とは別個の新規事業が増えるため予算対応にも大仕事となるからだ。また、故真田元委員長の居住地横浜市へも再三足を運んだ。京都へ帰る最終便に乗り遅れ１泊したことが思い出される。

最終的な承認作業は岸記念体育館内の(財)日本中体連本部(元)専務理事黒木昊氏、連盟本部事務局先生方の賛意を得るため表敬訪問をすることであった。経過は万事好都合に進行し、支援体制が出来上がった。

ところで、肝心の大会運営経費は一体どんな捻出方法ができたのか。予算措置としては独立採算０のスタートであるが、大阪商人の町、堺市で開催が決定し、神田(元)会長の見事な采配で資金の調達が始まった。

まず、堺市100万円（神田会長）、大和銀行（緒方(元)監督）50万円、(財)日本協会50万円、堺仁徳ライオンズクラブ（神田(元)会長）100万円、以上各種企業団体協賛金合計300～350万円等が主な予算案として計上された。中でも優勝旗については、京都工芸繊維大デザイン専門家、長坂大先生に依頼した（筆者と同じ勤務先)。材料は格調高い西陣織の金糸、銀糸の最高級に近い立派な作品が完成した。製作費は２本で100万円という見事さである。次に後援新聞社の選択は、まず読売新聞大阪本社へ神田(元)会長と事業部長を訪ねた。丁度12月下旬、さわやか杯バレーボールＪＯＣ大会が開催されており、全国版に全選手の紹介等プロフィールの記事を見て驚いた。会場の大阪府立体育館を視察、場内のＴＶ放映、上下トレーナーを選手全員に支給（Ｃ社)、全国都道府県選手交通費、宿泊費全額補助（Ｃ社）など比較にならない支援がなされており、１億円近いジュニア育成に力点を置く協賛エネルギーを目の当たりにして会場を離れた。結果は「朝日新聞社」の選択となったが、試合記録が翌日の朝刊に出ていないこともあり、大会関係者、全国ファンの皆さんには、今、なお申し訳なく、マスコミのオリンピック評価がすべてのカギとなっている。

第１回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ・ハンドボール大会は、平成５年３月27・28日の２日間、大阪堺市大浜体育館、金岡市民体育館の２会場でスタートした。大会裏方関係者の蔭の力がここに集大成し、今日に至っていることを銘記し、その成果を高く評価しなければならない。

最後に当時の関係者の課題メッセージを紹介しておきたい。

故真田元委員長談「バルセロナオリンピック男女の出場権を逃し、アトランタ・オリンピックへの展望も楽観を許さないといわれている。日本ハンドボール界の緊急最重要課題は、ジュニア対策だけにこの新大会にかける期待は大きなものがあろう」。また、神田清大阪協会(元)会長は、「(財)日本中体連及び地元役員の努力に対して(財)日本ハンドボール協会の対応は誠にお粗末。底辺強化の核となる選手育成に資金補助は微少であり、すべて中体連地元協会任せ、大会主旨の理解に乏しいのは情けない。それにもまして世界・アジアでの成果は今一である。例えば全国高校選手権を国体選抜形式で男子185cm以上、女子175cm以上を各チームに２名づつ加えること。また、学連では９ブロックＪＯＣ方式を採用・男子190cm以上、女子180cm以上を各チームに２名づつ加えることなど中・高・大・実を系統化することなど一貫した総括的な見直しが必要ではないか。要はナショナルチームのメダル獲得が見えてこないため末梢的な問題解決にばかり走り過ぎる傾向がある。サッカー的な基盤づくりは一日にして成らずと言いたい。根気よく積み上げた基礎知識の下地が大前提であろう。トレーナー、コーチが大局的な立場であれだけのインパクトを持つ指導大系の中で、きびしく実践面に即した評価を得なければ大舞台には羽ばたけないだろう。危機管理能力は欠けていないか、夢のまた夢で終わるのか心配する」。

このＪＯＣジュニアオリンピックカップ・ハンドボール大会が未完の大器といわれるメダル選手の発掘に貢献できることをさらに念願して期待したい。

第51回 日本スポーツ賞 広島メイプルレッズ受賞

読売新聞社制定の第51回日本スポーツ賞の優秀団体にハンドボール界から“広島メイプルレッズ”が選ばれました。

日本スポーツ賞は1951（昭和26）年に読売新聞社が制定。毎年、わが国のスポーツ全47競技団体から推薦された優秀選手、またはチームの中から「日本スポーツ賞委員会」（青木半治財団法人日本陸上競技連盟名誉会長はじめ13名の委員）により慎重な選考を行い、日本スポーツ界の最高の選手またはチームを選び、栄えの「日本スポーツ賞」受賞者を決定するものです。

今回、広島メイプルレッズが受賞したのは、競技団体別最優秀チームとして戴いたものです。

広島メイプルレッズは、1994年4月にイズミ女子ハンドボール部として発足、韓国からバルセロナオリンピックの金メダリスト林五卿（イム・オ・キョン）選手を迎え、創部3年目にして日本リーグ1部優勝をしたチームです。

以後、昨年の第25回日本リーグで優勝し、3連覇（4回目）を達成。

昨年7月、イズミ女子ハンドボールは総合スポーツクラブを目指し、広島メイプルレッズとして再スタートを切りました。

7月の全日本実業団選手権で3度目の優勝、また12年の全日本総合選手権大会でも3年連続4回目の優勝をするなど、クラブ化することで、練習時間の減少など制約の生じるなか、以前と変わらぬ成績を収めることができたことが受賞の理由となっています。

21世紀に入り、日本経済が逼塞する中、スポーツ界をとりまく環境も大きく変わってきました。これまでスポーツ界をリードしてきた企業のリストラに名を借りたチームの休廃部、活動の縮小などです。

スポーツの重要性は声高に叫ぶものの、スポーツ活動への理解はないといったところが現実です。

この4月からは学校週休2日制となることで、ますますスポーツへの期待は高くなっていることはアンケートなどにも現れていますが、どう対処するかというと、行政も及び腰なのが現実です。

そこで、サッカーJリーグの川淵チェアマンも提唱されています。スポーツ100年構想を目指した地域貢献型総合スポーツクラブが今後のスポーツの主流になってくると思われます。社会の変革のなかで産声をあげ、クラブチームとして再出発した広島メイプルレッズにとりまして、身に余る光栄と感激すると共に、より一層の頑張りを期待してのものと、関係者一同肝に銘じています。

第12回全京都車いすハンドボール大会

京都府ハンドボール協会副会長　**小西博喜**（近畿福祉大学教授）

《総　評》

第12回全京都車いすハンドボール大会（京都障害者スポーツ振興会、㈶京都市障害者スポーツ協会、㈶京都新聞社社会福祉事業団、京都日吉ケ丘ライオンズクラブなど主催、京都府ハンドボール協会後援）が、去る11月25日、京都市左京区の京都市障害者スポーツセンターで開催され、障害者の熱戦が展開された。

第１回全国障害者スポーツ大会の正式種目ではないが、本年度は宮城県において、これからの発展が期待される障害者スポーツとして公開競技の３種目に「車椅子ハンドボール」が採用され実施された。

車いすハンドボールは、1998年に京都で開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会を契機に、京都府ハンドボール協会の支援のもと京都障害者スポーツ振興会が考案したもので、京都で誕生した。

この大会は障害者スポーツの普及・振興と理解を深めるために、これまで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」（ゆうあいピック）を統合した国内最大の障害者スポーツの祭典である。

大会には、Ⅰ・Ⅱ部合わせて12チームが参加。今年も京都府・市から９チームのほかに県外から福井県の小浜病院と同病院のファミリーチームの２チーム、神奈川県のカナリハ（神奈川リハビリテーションの略）送球部１チームが初参加、外来チームは３チームとなり、盛況の中で注目を集めた。

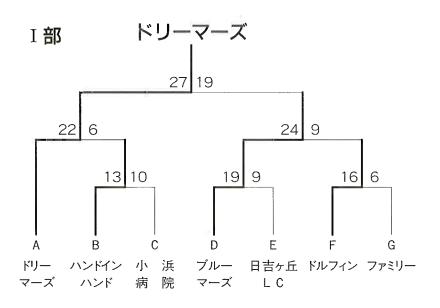
大会は今年翔く・新世紀みやぎ大会の公開競技に参加し４位と健闘したドリーマーズ（前年度優勝・宮津市）がその経験を生かして個々に声をかけ合いながら、随所に速攻と巧みなシュートを見せて、他のチームを寄せつけず、余裕のある試合運びで完勝した。他府県勢のチームも精一杯善

戦したが、車いす上でのボールさばきやルーズボールの取り合いにやや戸惑う場面があり、辛うじて小浜病院が４位に入った。来シーズンに期待したい。また、この大会の視察員として、岡本克彰氏（元日本協会審判審査委員）、加藤直美氏（埼玉リハビリテーション勤務・元愛知県高校ハンドボール部選手）や沖縄県養護小・中学校教員の新里泰司先生は全日ゲームのビデオ撮りで活躍されていたのが印象的であった。来年に向けてのチームづくりと参加を歓迎する旨を伝えた。

《ニュース》

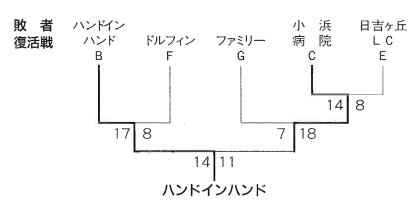
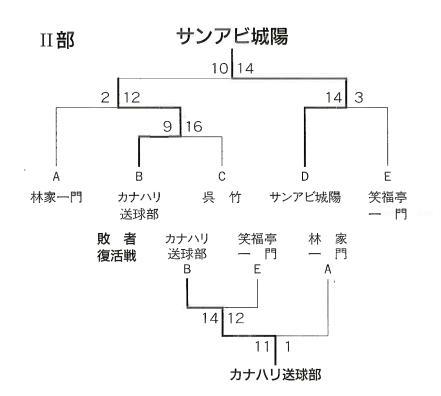
今回、国際放映㈱により（ＡＢＣテレビ系列）“車いすと弁護士”のテーマで、宇津井健主役のドラマに車いすハンドボールが取材されることになり、すでに東京で京都障害者スポーツ振興会との打ち合わせが始まった。京都障害者スポーツ振興会は本年が創立30周年であり、記念行事としてもふさわしい朗報になりそうだ。以前に宇津井氏はバスケット障害者として出演しているが、今回はハンドボール選手としての活躍が期待される新ドラマ化を待ちたい。

平成13年度第12回全京都車いすハンドボール大会試合結果

対　戦　表

順　位　①ドリーマーズ
②ブルーマーズ
③ハンドインハンド

Ⅰ部

Ａ．ドリーマーズ(宮津市)
Ｂ．ハンドインハンド(京都市)
Ｃ．小浜病院(福井県)
Ｄ．ブルーマーズ(宮津市)
Ｅ．日吉ヶ丘ＬＣ(京都市)
Ｆ．ドルフィン(亀岡市)
Ｇ．ファミリー(福井県)

敗　者
復活戦

順　位　①サンアビ城陽
②呉　竹
③カナリハ送球部

Ⅱ部

Ａ．林家一門(京都市)
Ｂ．カナリハ送球部(神奈川県)
Ｃ．呉　竹(京都市)
Ｄ．サンアビ城陽(城陽市)
Ｅ．笑福亭一門(京都市)

大塚文雄のハンドボール ❶

東京の大塚文雄先生が、指導者のいない高校生に向けてハンドボールの解説書を配布されているとの情報を得ました。せっかくの先生のご努力が少しでも多くの方々に理解されるよう、この解説書を大塚先生のご了解を得まして、機関誌に連載いたします。

はじめに

近代ハンドボールは、ここ数年で飛躍的に競技力が向上した。その理由の一つとして、ルール改正の趣旨が徹底されてきた事だと思う。それは、今まで体力とパワーのハンドボールからテクニックが生きるようになってきたからだ。

そんな中、高校生のゲームが面白い。皆、真剣にプレーし自分の持っているものすべてをパフォーマンスしている。強いチームも弱いチームもいいネェー！

しかし、東京の高校を見るとチーム数は結構多いが、指導者が大変少ない。したがって指導者のいない高校の練習もゲームもいまいちの感はまぬがれない。そこで、今の世界の、日本のトップのハンドボールの考え方を紹介し、今よりほんの少しでも進歩してくれればそれで満足。でも、こんなもの一度や二度読んでも理解が難しい。せめて図を見て、なるほど…。と思ったことを取り入れてやれば…。

私は、1965年に都高体連に入り、毎年、君たちの先輩の試合を見てきたが、20年前とそんなに変わっていない。練習方法も昔と同じで進歩がない。そんな中、ずーっと日本ハンドボール協会の中枢にいた私の経験と知識の一端を皆さんに役立てていただければと、重い腰を上げてみた。何かの参考になれば幸いです。

なお、ここに掲げたものはＩＨＦの会議で、世界の著名な理論家や有力コーチが講演したものや、ＩＨＦから日本に技術講習会に来られた方の理論であるが、訳は（財）日本ハンドボール協会指導委員会メンバーが訳されたものである。それを私なりに多少易しく解説を加えてみた。

現代のハンドボールの特徴

攻撃面では

1．１：１をきっかけとしたずらしのプレー。
2．ブロックをきっかけとしたプレー。縦のブロックや横のブロック
3．クロスをきっかけとしたプレー。
4．個人技術のレパートリーの広がり。

ａステップシュート　ｂバウンド・パスの定着　ｃサイドシューターの逆スピン・シュート（体育館ではないので難しいかな？）

防御面では（いろいろな守り方があるが）

０－６ディフェンス・システム

都高体連では一番多く見られるディフェンス・システム。

このディフェンスは横の防御の範囲が狭いので、防御には有利であるが、厚みに欠けるので、長身者ぞろいのチームには有効。世界ではスウェーデンが基本ディフェンスのシステムとして採用している。その他、強豪国も、ディフェンスのバリエーションとして持っている。スウェーデンはもちろん２ｍをこえる大男ぞろいのチーム。

１－２－３ディフェンス・システム

都高体連では、ほとんど見られない。(採用しているチームでも１－５に近い）日本では、中村荷役（廃部）や大同特殊鋼など強豪チームが、このシステムを基本にしている。世界では、ユーゴがこのシステムを考案し、世界選手権で優勝をはたし全世界に広まった。韓国の女子などもこのシステムを駆使し世界の頂点にたった。

非常に攻撃的なディフェンス・システム。

１－５ディフェンス・システム

都高体連でも多く見られるディフェンス・システム。

非常に柔軟なディフェンスで、トップの臨機応変、柔軟な動きでいろいろなディフェンス・システムに応用できる。

世界的にこのシステムを基本にしている国は、フランス・ロシアなどで、特にフランスのＤ・コンスタンチニ監督はこのシステムを完成させたので有名である。

２－４ディフェンス・システム

相手がダブル・ポストで攻撃してきたり、両フローターにロングシューターがいる場合に有効なディフェンス・システム。世界的にはディフェンス・バリエーションとしてクロアチア・スウェーデン・ドイツなどが採用しているシステムで、ツートップと呼んでいる。

最近、日本でも早稲田大が開発したとされる１－１－４

（ワン・ワン・フォー）は、私はまだ理解不足で誤りかもしれないが、ヨーロッパのツートップのやや変形と思われる。このディフェンス・システムは都の高校も採用しているところがある。

その他

３－３やマンツーマン・ディフェンスがあるが、３－３は１－２－３と同様と考えて良い。マンツーマン・ディフェンスは、相手のエースを押さえるために使われ、高校生のゲームでもおなじみのものである。しかしヨーロッパでは相手チームに１人退場者が出たとき２人マンツーマンをつけ３：４（相手が３人）で守るなど、戦術として使われる場合があり、それなりに有効である。

また、エジプトなどでは、うしろにポストを守る１で前に５人並ぶと云う１－５ではなく５－１という新しい攻撃的なシステムも生まれている。

ディフェンスについての考え方

都高体連の試合を見ていると、ディフェンスは大体ゴールエリアライン付近で守っている。あたり前のこと…。だって攻撃してくる相手を防御するのが目的だから。

しかし、今や、世界のディフェンスに対する考えは「攻撃してくる相手を防御する」という消極的な考えではなく、「攻撃しに来る相手を攻撃する」という考えが、主流である。だからエジプトのように攻撃的なディフェンス・システムが開発されるのです。「ATTACK THE ATTACK」この言葉のように、消極的な防御でなく、相手の攻撃をいかにかき乱してボールを早く得るかにその理念をおいている。

韓国も１－２－３の基本ディフェンス・システムから２－４、３－３と積極的な攻撃的なディフェンスをこころみて世界の頂点にのぼりつめた。

高校生の皆さん！今日から積極的な攻撃的なディフェンスを練習してみよう。なに！それにはフットワークがついていかないって…？

もちろん、だから練習・練習‼（カニなんか練習していなくても、横の動きは君達より速いぞ…！）

★文章を読んで動きを理解するのが実に難しいし面倒くさい、スピードやタイミング、これがまた、文字では表わせない。そこは賢明な君達、図など見ながらなんとか理解してよ。お願い！（最後は、たのんだりして！）

１－５の積極的なディフェンス

１－５のトップ・プレーヤーの動き

1．ボディチェック：相手の切り込むコースを読み、動きを封じる。
2．ボールプレッシャーに入る。相手との間合いを詰め、ボールを自由にパス出来ないようにする。
3．パス・コースに入る。相手のパスを予測し、カット出来る位置に入る。
4．パスに対する牽制。自分がマークしている相手にパスをさせないように間合いを詰め牽制する。
5．シュートを打たせない。間合いを詰め、相手にシュートを打たせない。
6．シュートを打たせる。ＧＫとのコンビでシュートを打たせる方向を決め、打たせる。

★１－５のトップって結構いろいろなことするんだナー！知らなかった…。

図の中の攻撃プレーヤーは、１・２・３・・・で表わす。防御側プレーヤーはＡ・Ｂ・Ｃ・・・で表わす。

１．攻撃開始の時のディフェンス（これから６：６を始めるぞー）

下図のように、サイドとトップの活動にその特徴がある。Ｆはセンタープレーヤー③にタイミングの良いパスが入らないように、また、サイド①にボールが入らないようＡが

図１

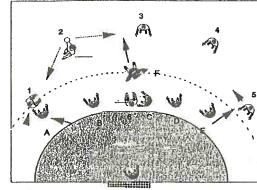
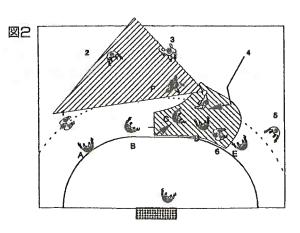
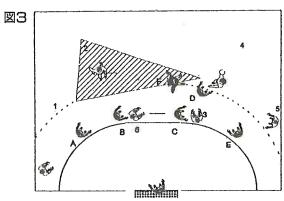
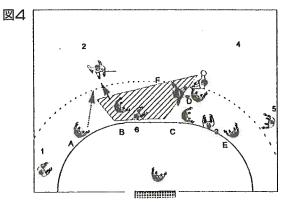



図2

図3

図4

圧力をかける。そして、攻撃のリズムを乱し、攻撃のきっかけを自由にさせないようにする。Aは①がパスを受けられないよう、間合いを詰め、押しあげ、攻撃の範囲を狭くさせる。両サイドを攻撃に参加させないで真中で４：４にさせる。

２．攻撃を開始局面でのディフェンス

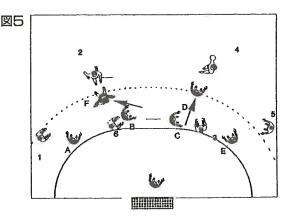
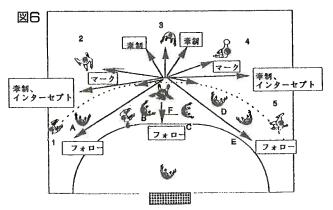
Ａ．４５度フローターのインに対する防御（アウトへ抜かれるとサイドで２：１になりやばい）

センタースリーからの攻撃において④がフェイントしながらインに切り込んでくる時、基本的なディフェンスはポスト⑥が上図の場所からＤの方へ移動してきたので、ＣとＤはチェンジし、Ｃが④へＤは⑥をマークする。そしてトップＦは④のパスコースにプレッシャーを加えながら、シュートに対し横から圧力を加える。バリエーションとしては、ＣとＤはチェンジしないで、Ｄが④へＣはそのまま⑥についていっても良い。

Ｂ．相手がダブルポストになったときのディフェンス

⑴前図のように、ワンポストから、上のセンタースリーの１人がポストに入り、ダブルポストになった時。

図5

図6

ダブルになった瞬間には図３のような全体的な位置取りを行ない防御が破綻しないように守る。

トップＦは、②へタイミングのよいスピードパスが渡らないようにパスコースへ入り、プレッシャーをかける。

②へパスが渡ると逆サイドで３：２となり非常に危険な状態となる。

もし、パスが②へ渡れば、サイドＡが②に詰め、ファールをとったりプレーを遅らせ、その間にマークを合わせる。

⑵トップＦとＤで④にプレッシャーをかける場合。

トップＦは幾分下がり目の位置を取り、Ｄと２人でボールを持つ④にプレッシャーを加える。図３の方法より逆ポスト⑥にボールは渡りにくいが②へはパスが出る可能性が高い。その際は、Ｂが基本的に対処する。Ｂで間に合わない場合は、Ａでも良い。

⑶ツートップのディフェンス・システムになる。（２－４のシステム）

トップＦは、相手がダブルポストになった瞬間、タイミングで④につくか②をマークする。それを見て反対側45ディフェンスが前に詰め相手のフローターをマークし、２－４のディフェンスになる。

サイドから展開が始まる場合、自分のマークするプレーヤーをマークしながら、パスコースをつぶし、カットを狙うなどプレッシャーをかける。

３．トップの自由奔放な動き

トップＦのパスコースを読んだいろいろな動きは、図６のようにいろいろなディフェンスが出来る。トップＦの動きに合わせ下のディフェンス陣が調和して動けば最高!!

これで、今日も試合に勝てそうだ…！がんばるぞ。

見るだけでも楽しい！
こだわりショッピングサイト

http://www.toki-meki.com/

こだわって選んだ商品だけを紹介するインターネット・ショッピングサイト。
コンビニの「サークルK」や「サンクス」が母体の会社ですから安心です。
ファッション、スポーツ、ビューティ、デザイン家電、インテリアetc.
暮らしや"心"を応援する、多彩なジャンルを網羅するさまざまな
グッズやサービスをご提供しています。
そこには、あなた自身のこだわりに共鳴する1点がきっとあるはず。

シーアンドエスグループは、日本ハンドボールチームを応援しています。

サークルケイ・ジャパン株式会社、株式会社サンクスアンドアソシエイツ、
ときめきドットコム株式会社はシーアンドエスグループです。

シーアンドエスグループ

連載21

NTSセンタートレーニング実施結果について（報告）

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲生晴明

一貫指導システムとして競技者育成プログラムの構築、有望選手の発掘を目的としたNTS（ナショナルトレーニングシステム）がスタートし2年目のセンタートレーニングを実施いたしました。今回のセンタートレーニングは、U－19・U－16のスタッフが選考した全国の優秀選手とNTS各9ブロックから選考していただいた有望選手を一同に集めて、トレーニングを実施しながら、将来的に日本の独自性を創りあげるため、戦術的にナショナル活動との関連性を持たせること、また、この機会を通じ、ナショナルチームへ人材を幅広く発掘登用していくことを目的として、U－19・U－16の選考会と合同で行いました。U－12も同様に実施しました。

年末の忙しい時期ではあったものの、ほぼ予定の選手・指導者が参加して、無事終了することができたことに感謝いたします。

内容的には、ナショナルチームが世界・アジアで戦うため必要な戦術・技術・栄養休養の摂取・新しい情報などを共有化し、日本が世界を相手にした際の問題点・課題などを共に考え、自分を磨き、見直す、絶好のチャンスであったと考えております。
次に、各カテゴリー別に実施した評価を述べます。

1、運営側の成果・課題として

(1)【U－19男子】
- ハンドボールに対する意識が高かった
- 仲間意識が強い
- 勝負に対する拘りがある
- 積極的にトレーニングに参加していた
- 運営のスタッフが多く、役割分担がしっかり出来ていて活気があった
- 教わることに飢えていた
- 指導者が少なかった

(2)【U－19女子】
- ハンドボールに対する意識が高く、進学後もハンドボールを継続する選手が多く見られた
- 仲間意識が強い
- 積極的にトレーニングに参加していた
- 運営のスタッフが多く、役割分担がしっかり出来ていて活気があった
- 昨年と比較して指導者が多くなった

(3)【U－16男子】
- 2年生に体格の大きな将来有望な好素材がいた
- トップ層の実力が向上し、技術戦術のレベルにおいて差があった
- NTSスタッフとして現役の選手がいなかったので、ダイナミックなお手本が出来なかった
- ミーティングでは、直前の女子世界選手権の編集ビデオに興味を示していた

(4)【U－16女子】
- 現時点では、全体的に技術戦術のレベルにおいて大きな差がなく、これからの指導の大切さを感じた
- NTSスタッフとして現役の選手がいなかったので、ダイナミックなお手本が出来なかった
- 直前の女子世界選手権の編集ビデオには、選手・指導者ともに興味を示していた
- ハンドボールに対する意識が高く、進学後もハンドボールを継続する選手が多く見られた
- 指導方法として提示した内容について、好評であった

(5)【U－12男女】
- 11～12才レベルとして、個人のレベルが非常に高かった
- 現役のナショナル選手も参加し、将来の「夢」を大きく持ってもらった
- トレーニングにはスタッフも参加し、ともにエンジョイできた
- 仲間意識が強く、互いに打ち解けることが迅速にできた
- 指導方法について、ともに共通事項を持てた

2、NTSセンタートレーニング参加選手・指導者のアンケート結果について（図表参照）

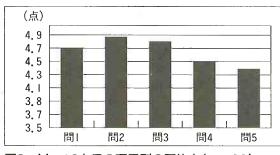
NTS運営委員会副委員長：東根明人

今回のアンケートは、5項目について5段階評定をし、トレーニング全般及びNTSに関する自由記述をするという内容でした。5項目の質問は、以下の通りです。

- **問1：今回のトレーニングは、あなたにとって良かったですか？**
- **問2：コーチの説明は、わかりやすかったですか？**
- **問3：トレーニングの内容は、あなたにとってためになりましたか？**
- **問4：VTRミーティングは？**

・**問５：栄養指導は？**

全体的な傾向をみますと、各項目とも大変高い値を示しています。図にはありませんが、５段階評定における、１．全くためにならなかった、２．ためにならなかった、という評価は皆無に等しいものでした。

次に、部分的な考察を述べます。問４について、指導者とＵ－12男女が低い傾向でしたが、ＶＴＲ（テレビが小さかった）が良く見えなかったことが主な原因と考えられ、設定方法を検討する必要があります。問５の「栄養指導は？」は、指導者にとっては常識的な範囲であったのではないかと考えられます。問２の「説明と解かり易さ」をみると、Ｕ－16男子については他のカテゴリーと比較すると、若干差が認められました。プレゼンテーション能力は、コーチ・指導者の重要な課題のひとつであると認識しています。

自由記述について簡潔にまとめた結果、選手側の感想では、「参加できてよかった」「コミュニケーションの重要性が分かった」「自分よりうまい人がたくさんいた」「一つ一つが勉強になった」等、ＮＴＳの機会をとても有意義に受け止めていることが推測できます。指導者からの意見につきましても、「継続させて欲しい」「拡大させて欲しい」「スタッフとのミーティングがよかった」「もっと時間をかけてほしい」「世界との違いを示して欲しい」など、とても積極的で建設的な要望や意見が寄せられました。Ｕ－19女子は、アンケート配布が間に合いませんでした。

今回のアンケート結果はもとより、現場における様々なご意見に耳を傾け、皆様とともに将来の日本を背負う子どもたちによりいい指導や環境を提供するためにも、是非役立てたいと思います。今後とも皆様と共にＮＴＳを発展させていきたいと考えております。

図1：U－19男子の項目別の平均点（n＝43）

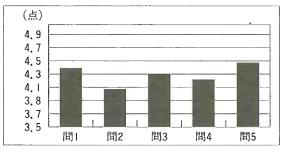



図2：U－16男子の項目別の平均点（n＝40）

図3：U－16女子の項目別の平均点（n＝33）

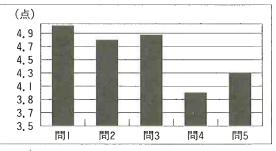
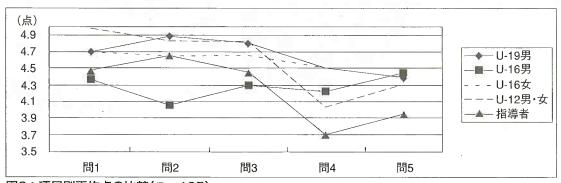
図4：U－12男女の項目別の平均点（n＝34）

図5：指導者の項目別の平均点（n＝45）

図6：項目別平均点の比較（n＝195）

隠れた人材発掘

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

　男子の世界選手権予選の結果は、この機関誌が発行されるころには分かっているが、果たしてどんなうれしいニュースが届いているだろうか。これを第１弾として女子の世界選手権、さらに９月には韓国・釜山でアジア競技大会があり、さらには７月に世界チャンピオンのフランスも来日することになっている。こうみると2002年の日本ハンドボール界にとっては「のるか、そるか」の勝負の年であることは間違いない。

　そうした中で、３年目を迎えた「ナショナルトレーニングシステム」（ＮＴＳ）がようやく周囲の理解が得られてきている感じだ。「強いニッポン」の基盤づくりへ欠かせない企画である。今後の効果が待たれる。そのためには各界の理解と協力がなければ発展はない。それぞれのカテゴリーを越え、手を携えて成功へ導くことが何よりも必要であることは言わずもがなである。

　さて、そうした一方で、隠れた人材を発掘する努力も並行して推し進めることがどれだけ出来るかも、忘れてはならない。各高校、あるいは大学でハンドボール大好き人間が数多く埋もれていることは容易に想像できる。でも、日頃から注目していなければ、関係者の目に止まらないだろう。

　まだ動き出したばかりではあるが、そうした人材を発掘して鍛えようとの試みが始まっていると聞く。いろんな関係者に呼びかけてＰＲしてもらいに「われこそは」という人材に手を上げてもらおうというもの。それによってセレクションを開いて好素材を発掘し、戦力につなげようという新たな試みである。

　どのような人材が集まるかも興味があるし、新たな強化プランでもあると思う。「埋もれた人材」は、必ずいると思うし「心底、ハンドボールがやりたい」とウズウズしている“金の卵”は多くいるのではないだろうか。そうした選手を発掘することは、言い換えればハンドボール界にとっては大きな財産になることでもあろう。

　どれだけ集まるかはともかく、まずはプランを実行に移すことこそが大事である。他のクラブ、チームにも刺激を与えるだろうし、選手自体にも「やる気」を起こさせるプランであろう。一つのアイデアが今後の強化にうまく結びついてくれれば、この上ない喜びである。ただ、受け手の才能を見る目をしっかり持っていることも忘れてはならないことであるのはもちろんである。成功を祈る。

中学校活動シリーズ

盛岡市立松園中学校（岩手県）

① 学校名、指導者名、所在地

岩手県盛岡市立松園中学校
指導者：教諭　佐々木竜也
所在地：岩手県盛岡市東松園二丁目14－1

② 部員数

男子１年－５名　２年－９名　３年－21名／計35名
女子１年－10名　２年－３名　３年－７名／計20名
男女総数／55名

③ 部創立時期・部活動継続の苦労話

松園地区は新興住宅地として切り開かれ、昭和56年４月に１年生のみの入学生で松園中学校が創立しました。創立当時から男子ハンドボール部があり、１年生でのスタートが切られました。女子部は昭和58年に設立しました。開校当初は、地域の指導者の協力により、男子部が県大会・東北大会で活躍し優秀な成績を納めました。女子部は、平成８年度から４年連続県大会を制覇し、東北大会でも上位優勝を果たし、平成10年には全国大会にも出場しています。

部活動継続の苦労は、転勤で顧問が変わることにより、未経験者が配置となった場合の指導の難しさが挙げられます。同地区の学校の協力で、合同練習や練習試合などの交流を行っていますが、現状としてはハンドボールの知識が少ないことで、指導に苦労していることが挙げられます。また、本校の生徒数は平成５年がピークで、生徒数が1,100人を越えていましたが、平成８年度に北松園中学校が隣接され、現在の生徒数は460人になりました。現在本校でも少子化の流れによる生徒数の減少があり、年々部員数が減ってきています。

松園地域にはハンドボールを指導してくれる指導者がおり、小学生を中心にスポーツ少年団の指導を行ってくれています。そのために、ハンドボールの経験者が数名いて本校入学の時にその子どもたちを中心に入部してくれます。また、本校の卒業生が育てたハンドボール部の伝統とハンドボールに興味を持った生徒が毎年入部してくれます。

④ 指導にあたって特に留意している事項

１）体力づくり

ハンドボールは、スピードとパワーのスポーツとして捕えています。そのために、基本となる体力づくりは、重要な一部と考えています。中学校では、25分－10分－25分でゲームが行われ、50分間試合できるゲーム体力とミスをできるだけ少なくするための集中力が必要です。

そのために、長い距離を継続して走ることやボールを使って心拍数を上げた状態でパスやシュートをミスせずに行うための練習は大切にしています。また、脚力や腕力など強化のための補強運動を毎回練習の中に取り入れています。

２）個人技術

個人技術は、オフェンス・ディフェンス技術に分けられますが、個人の能力によっての差があり、習熟度も異なります。初期段階では、身に付けさせたい技術の基本練習を繰り返しやることを心がけています。

オフェンス技術では、パスキャッチ、パス、シュート、フェイント、その他にコンビプレーやディフェンス・キーパーとのかけ引きなどの指導を大切にしています。

ディフェンスについては、フットワーク、身体接触、面の取り方、ディフェンスとディフェンス、ディフェンスとキーパーのコンビネーションなど必要と考えることを指導しています。ディフェンスについては特に身体接触が難しいので、できるだけ接触できる状況の練習を設定し、ルールブック８の１（d）（相手の正面で曲げた腕が相手に触れている状態や、そのまま相手の動きについていくことは違反ではない）を意識した練習を行っています。

３）チームの課題解決

大会や練習試合などを通して、チームの課題が見えてきます。相手のディフェンスやオフェンスに対応できなかったり、自分たちのミスなどがあります。その中でやることは、自分たちがうまくできなかった事を繰り返し練習することだと考えています。

オフェンスについては、センタースリーやダブルポストの形での攻撃の展開やディフェンス側の変化（６：０ディフェンス以外のシステムや速攻時のカットディフェンス等）に必要な内容を繰り返し練習します。その中で一番注意している点は、位置取りや走るコース取り、走るタイミングなどです。一度攻めた後、ボールだけを目で追わずに全体を見回し、次に自分が生かされるポイントを見つけ、攻撃の準備をさせることです。この点についての指導は難しく、いつも悩まされるところです。

ディフェンスについては、ディフェンス技術（１：１、…６：６）を２）で述べたような形で、チームのディフェンスシステムに合わせて行っています。

４）精神面の強化

生徒達は、ゲーム中に緊迫した場面になればなるほどプレッシャーを感じ、失敗に結びつくケースがあります。その精神的な弱さを取り除くためには、さまざまな経験を重ねることや普段の練習に取り組む姿勢が大切だと考えていますが、特に強く生徒に指導していることは、日常の生活をしっかりやることを常に話をします。本業である学業を大切にさせたいこともそうですが、注意力や観察力、判断力や決断力など、落ち着いた形で対処できる力は、日常生活が一番大切だと思います。

⑤ 部員数確保への具体的取り組み事項など

本校では、入部するまでの期間、部見学期間（約２週間）・仮入部期間（約１週間）新入生へのオリエンテーションが１回行われます。その中でハンドボールの魅力をアピー

ルしています。オリエンテーションでは、シュートを中心にスカイプレーへなどハンドボールをはじめてみた生徒に、ハンドボールの迫力やカッコ良さを知ってもらうような取り組みをしています。また、部見学期間や仮入部には1年生の担当係を決め、ボールの扱いやシュートの体験などを優しく指導させています。この他には、部員の知っている生徒を中心に声かけや呼びかけ、ポスターでの募集などを行っています。

⑥ 地域社会・近隣小・中・高等学校との連携やかかわり方について

松園地区には、ハンドボールのスポーツ少年団の指導者がいて、小学校・中学校を中心に指導してくれています。このスポ少には松園地区以外からの参加者もおり、ハンドボールの楽しさや技術について指導してくれ、小学生は大会にも参加しています。その中で育てられた児童たちが本校にも入部してくれ、スポ少の指導者も女子部のコーチとして本校に協力してくれています。地域の指導者のお陰で、地域との連携が図ることができています。また、盛岡地区には多くの高校があり、ハンドボール部がある学校顧問の先生方のご理解もあります。時期的に余裕があるときは、指導について良心的にアドバイスを行ってくれ、実際に生徒を高校に招いて練習の指導をしてくれています。

上記のようにハンドボールの連携については、地域の指導者のご理解とご協力のおかげで、良い環境にあります。

⑦ ある日の練習メニュー

■ 12月23日（日）9：00～12：30

① ランニング
② 体操・柔軟
③ フットワーク
④ 体力づくり（脚力強化、ケガ防止など）
⑤ ディフェンス練習（2人組）
⑥ 3対2の速攻（オールコート）
⑦ 1対1
⑧ 3対3
⑨ 6対6
⑩ ランニング
⑪ 体操
⑫ ミーティング

前半の基礎練習は欠かさずやることを心がけています。身体の持っている体力や身のこなしは、繰り返しの練習によって身につくので、基礎の反復練習は必要だと思います。また、練習でできないことは本番でもできることはありません。そこで、できないことはできるようになるまで繰り返し練習させ、体に覚え込ませる努力をします。ミスは何かが原因で起こります。その多くは単純なことから起こるので、特に意識していることは、パスを出した後ボールを持っていないときの位置取りや走るコースなどスペースをどう生かしていくかを意識させています。

⑧ 小・中学生など若年層の競技人口拡大に向けての諸方策

1）指導者・施設の充実

現実的に見た時強く感じることは、地域に根ざした指導者の育成にあると思います。それには、施設面などの充実

はもちろんのこと、地域におけるハンドボールの指導者の組織化や支える環境づくりなどが必要だと考えます。

2）児童・生徒の実態に即したルールの改正

小・中学校施設では、限られたスペースでの指導が余儀なくされます。実際に学校の授業の中では、用具があることが最低条件となります。ハンドボールゴールは、出し入れの際に出入り口の規格よりも大きいことで搬入に大変なことや体育館に常時置いておくスペースがないことなどがあります。そこで、小学校で実施する場合にゴールのサイズが小さめで安全に競技でき、運搬などをしやすくすることです。また、少人数でもできるゲームづくりやハンドボールのおもしろさを引き出すルールづくりをやることが必要だと考えます。それをやるために、5対5のゲームづくりやルールの改正などがあります。ハンドボールのルールで難しい点は、オーバーステップ・身体接触によるファウルの判定などがあります。生徒達がわかりやすく安全に実施するために、3歩以内の歩数を4歩以内にすること。身体接触による反則の基準をもっとわかりやすく、誰が見ても判定できること。その他にボールに関する事項やコートに関することで、バスケットボール的なドリブルが許されることや6ｍラインに関する扱いを緩和し、ラインに足が乗ってもシュートが入ったならば得点にすること。9ｍライン後方からのシュート得点を2点にするなど、ゲームを盛り上げ、ハンドボールの楽しさが前面に出せるような生徒の実態に合わせたルール改正が必要だと考えます。

⑨ ハンドボール文化を日本の中で定着させる具体的な取り組み

1）世界に通用する選手・チームの育成

スポーツは、実際にやって楽しんだり、健康の保持増進のために行ったり、見て楽しむことができます。その中でハンドボール文化を日本に定着させるには、やはり国民の注目を引きつけることが、一番の近道であるように感じます。メディアを通して知ってもらうためには、オリンピックや世界選手権で日本が常に上位に入り、ハンドボールの魅力をアピールすることだと思います。そのためには、指導者の養成や選手・チームを育成し、強いチームづくりから国民に期待されるスポーツとして発展させることが良いと考えます。

2）低年齢層への定着

8の2）でも述べたように定着させるためには、学校の授業や狭いスペースでも実施可能な児童・生徒の事態に即したルールの改正があげられます。これにはいくつかの条件が必要となりますが、ハンドボールをやった経験がない人でも安全に指導できたならばハンドボールの楽しさを伝えることができると思います。

第26回 日本ハンドボールリーグ プレーオフ展望

第26回日本リーグも終盤に差しかかり、プレーオフが間近に迫った。今年度はどのような激闘を見せてくれるのだろうか。

男子はここ数年、3強といわれる本田技研・湧永製薬・大同特殊鋼が常に上位を占め、不変の充実ぶりを見せてきた。しかし今年、三陽商会から岩本・中川・永島のスーパートリオを獲得した大崎電気が、純日本人の最強チームを形成。大崎はリーグ開幕から3強との対戦で善戦。白星を着実に重ね上位に食い込んでいる。今リーグ、3強主導体制は崩れ、戦国リーグとも呼ぶべき混戦が繰り広げられている。

第10週（2月2日）終了時点の戦績は、首位に10戦全勝の本田、2位・3位に2敗の大崎・湧永、4位に大同という状況。プレーオフ進出は、この4チームによって争われる模様だ。Ｖ4達成に向け闘志を燃やす本田は、ドイツでさらなるキャリアを積んだ橋本新監督、茅場を迎え、より充実した顔ぶれに。2位と好位置の大崎は、初のプレーオフ進出が目前なだけに、さらなる快進撃が期待できる。湧永は今シーズン、実業団選手権大会、秋季国体で既に2冠と地力を誇る。4位と出遅れている昨年3位の大同も、12月の全日本総合で前記3チームとの直接対決を制し、王座に輝いた。4チームとも実力はまさに互角だが、やはり最後に鍵を握るのは、一部の選手に頼らない、チームの総合力といえよう。外国人選手を有するチームは、いかに日本人選手が活躍できるかにかかっている。

女子は、昨年プレーオフ進出をレギュラーシーズン4位で惜しくも逃したシャトレーゼが、リーグ開幕から首位をキープ。それに続くのが、女王・イズミが地域クラブとして生まれ変わった広島メイプルレッズ。そしてオムロン、北國銀行と続いている。今シーズンでリーグ撤退を表明している日立栃木も善戦しており、プレーオフ進出争いに加わってくる様子だ。

シャトレーゼは今シーズン、立山アルミから山崎、ソニーから穂積と実績ある選手を獲得し、この2選手は期待通りの活躍を見せ、チームに貢献。勢いに乗り、着実に白星を重ねている。昨年のプレーオフ、今年の全日本実業団、全日本総合いずれも2位で苦杯をなめているオムロンは、急成長のルーキー・山田、金城を原動力に、今度こそタイトル奪取と闘志をむき出し。広島メイプルレッズは今シーズン既に2冠を達成し、高いチーム力が健在であることをアピール。ここ3年間、リーグＶ3を筆頭にあらゆる大会のタイトルを独占している広島の勢いが、引き続き今リーグのタイトル奪取につながるのか。またはこの広島を制し、新女王の座につくチームの出現なるか。プレーオフで死闘とも呼ぶべき熱戦が期待できそうだ。

【日　程】

平成14年3月16日（土）
　15：00より　女子準決勝
　17：00より　男子準決勝
平成14年3月17日（日）
　12：00より　女子決勝
　15：30より　男子決勝

【会　場】

駒沢体育館（東京）
　東京都世田谷区駒沢公園1－1
　電話　03-3421-6121

【テレビ放映】　TVK

平成14年3月16日（土）
　女子準決勝　18：30～20：00
　男子準決勝　20：00～21：45
平成14年3月17日（日）
　女子決勝　18：30～20：00
　男子決勝　20：00～21：45

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

さて、今回ご登場いただくのは。

岡田(旧姓 皆川)茂夫さん

兵庫県ハンドボール協会会長。元日本協会理事。第一回の讀賣スポーツ大賞受賞者。日本体育専門学校（現日体大）でハンドボールと出会い、その後日本代表として、対西ドイツ、ルーマニア戦に出場。北海道の函館中部高校に勤務し、道内にハンドボールを普及させた。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

戦時中の中学入学で、スポーツなどする社会情勢ではなく、2年生の夏の終わり頃、甲種飛行予科連に入隊しました。昭和20年8月の終戦で故郷に帰り、中学4年に復学しました。4年で卒業し、目的もなくぶらぶらしていると、日本体育専門学校が戦災で焼け、土浦に移転となり、6月に入学試験があることを知り、「近いから」と言う理由で入学しました。すべて運動の経験もなく、どの部に属するかさえ決断できずにいたとき、たまたま上級生からハンドボール部に誘いを受け、決心したのが出会いとなりました。入部してみて、皆上手であり、部員数も多く、毎日毎日ボール拾いをしていたら11人のメンバーに入ることはないだろう、と感じておりました。今考えると、あの一年間広いグラウンドの掃除とボール磨きばかりで、一時は部を辞めることも考えたことがありました。でも辞めたら負けや！、と必死で頑張ったことが、意外にも早々と認められ、メンバーの一人として加えていただいた喜びを今も忘れることができません。

当時のハンドボールはどのようなものでしたか。

現在のハンドボールはすべて7人制に変わって、11人制を話す人は古い世代になってしまいましたね。私も選手生活の終わり頃には7人制大会に3～4回出場し、優勝の経験もしましたが、今でも11人制を忘れられない一人です。日独対抗、ルーマニア戦などを経験しましたが、当時の日本代表選手と、彼らとの体格の差があまりにも大きく、また肩の強さにおいて問題にもならなかったことを記憶してます。当時は企業チームが少なく、ほとんどがクラブチームであり、学校のＯＢチームでした。思うように練習時間が取れず、苦労したものでした。現在の経済の悪化で、企業スポーツも減少の一途をたどりつつあります。またクラブチームの形態を取らざるを得ないのではないでしょうか。

ハンドボールを通じて思い出に残っていることは何ですか。

長い間選手生活を続けると、一戦一戦すべて意味があり、懐かしい思い出であり、特に記すものが選べませんが、東京の明星高等学校に勤務して一年後に、ハンドボール未開の地・北海道に勤務することを決意したことでしょうか。昭和25年4月函館中部高校に勤務し、第一の仕事は協会の設立でした。そして国体出場チーム作りに取り組み、以後北海道を去るまで連続出場を続けました。朝5時から一般女子の練習、8時から3時まで授業、3時から男女高校の練習、5時から一般男子の練習と、今考えるとよくも続いたものと感心します。以降、全日本選手権には一人上京して、全日体大の一員として連続出場してました。当時を振り返ってみると、北海道各地での講習会の開催、全日本高校選手権の監督としての出場、一般選手権出場、そして日本協会理事会の出席と、席のあたたまる暇もない日々でした。出張扱いにならない出張ばかりで、北海道で支給される寒冷地手当や、石炭手当などはすべて旅費となり、寒い北海道の冬、ストーブ無しで過したことが懐かしい思い出となっております。気がつくと、給料も3ヶ月前借りとなっておりました。本当にハンドボール馬鹿でしたね。馬鹿は馬鹿でもハンドボール馬鹿になれたことを今では喜んでます。途中20年ほど会社経営の為全くハンドボールから離れてしまいましたが、現在は兵庫県ハンドボール協会長として若い皆さんと一緒に頑張っております。ただ、寄る年波、昔のハンドボール馬鹿に戻れないのが何よりも淋しいことです。

今の日本ハンドボール界にご提言をお願いしたいのですが。

経済状況の悪化から、企業スポーツの廃部が続いていますが、今こそ我々は減少傾向にあるハンドボール競技をどう維持するのかを皆で議論する必要があると思います。一般論として、底辺の拡大と簡単に片付けておりますが、私は違った角度から提案をしたいと思います。まず選手登録に関してですが、一般人になった個人で、ハンドボールを経験した人が、それぞれの職場に意外に多くいることを知りました。そのような人々がチームを作ることもできず、そのままになっております。これらの人々に呼びかけ、地区大会に個人の参加を求め、その都度チームを編成して試合をする。勿論選手登録料は各県に一任し、本部登録料は無料とする。これを継続していけばやがてチームは確実に作られていくでしょう。次に小学生ハンドボールを普及するために、ビーチハンドのルールを改正したものを推進するのはどうでしょう。**1．ゴールポストは身長比で減少。2．連続のドリブルは3歩3秒まで。3．選手はＧＫ含み4人制。**各県各地で自由採用できることですが、日本協会としてのお墨付きが重要なのです。以上2点、如何でしょうか。

岡田さんありがとうございました。次号もお楽しみに。

井 薫氏『光と影』を刊行

このほど、前オムロン監督井薫氏が『光と影』を刊行されました。ハンドボール界の人には紹介する必要がないほどその経歴と、業績はよく知られていますが、あえてご紹介させて頂きます。

井氏は、中央大学で活躍された後、熊本の大洋デパート監督として女子の指導に当たられ、全日本総合で5回の優勝を飾っておられます。その後立石電機（現オムロン）に移られ全日本総合、実業団選手権、国体、日本リーグの全日本タイトルで38回の優勝をなされています。また、女子ナショナルチーム監督としても手腕を発揮され、日本としては唯一オリンピック入賞をされた指導者でもあります。まさに、女子球界では第一人者であるばかりでなく、日本ハンドボール界の偉大な指導者のお一人であります。

以上のような御紹介をすると、ハンドボールだけを私達は見てしまいます。しかし今回出版された『光と影』は、ハンドボールが世界平和と密接に関わっていることが身近に感じ取る事ができます。日本でも報道された、ユーゴ国内試合での暴動事件も歴史の脈絡の中で認識されます。私達のハンドボールを振りかえって考えてみるのにも絶好の機会を与えてくれる著書です。

今回、この『光と影』をご紹介するに当たり、著者の井氏にご足労をお願いし、執筆に当たってのお話を伺いましたので掲載いします。

（お求め希望の方は、井薫氏宛にお申し込み下さい。送料300円込みの1700円です）

〒862－0929 熊本市西原1－18－15　　Tel・Fax 096－382－8633

Q：『光と影』の執筆動機は

A：文中にありますが、ハンドボールで男女とも世界を制したユーゴスラビアの内戦の実態と、民族や宗教が絡む今日的問題の一端を知ってもらいたい想い、そして平和がどんなに大切でありがたい事かを日本の、特に若い人に認識してもらいたかったんです。

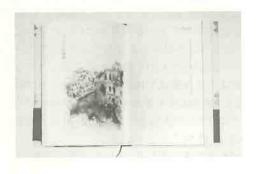
Q：井さんの指導法を含めた自叙伝と思いましたが意外でした

A：指導法は私よりはるかにふさわしい方が沢山居られます。自叙伝には50年早いと思っていますし、今が63才ですから50年は冗談にしても、私には自叙伝はありません。

Q：これはフィクションですか

A：フィクションの部分、ノンフィクションの部分を絡ませましたが、熊本の新聞は私小説と紹介しました。主人公の一人の谷の体験はすべて筆者の実体験です。

平和時のユーゴスラビア、そしてカーヤ達の来日、ユーゴ紛争、ブコバルの崩壊、1997年の男子世界選手権大会の熊本開催、これはすべて事実ですが、ストーリーは読んで推測を楽しんで下さい。

Q：執筆にどの位の時間を要されましたか

A：資料集めと精読に約半年、執筆に約半年、都合一年かかりました。

執筆動機にも関わりますが、私事ですが定年を記念したのも事実です。

図書館にもかなり通いましたし、兵器については防大の知人のアドバイスも受けました。

Q：表紙のカバーそして挿し絵が効果的ですね

A：かねてから私は熊本在住の「いわさき千鶴」の絵が好きで、また原稿の段階で縁があり、読ませて下さいということになり、若い人たちに伝えたいですねと協力を快く受けてもらいました。熊本の書店でも人目を惹いています。私としては本当にラッキーでした。特にカバーの平和時のユーゴの風景は、ヨーロッパを歩かれた方には好評です。

Q：世界選手権大会時の熊本の初夏を『光と影』を読んで思い出しましたが、泰勝寺の竹林や山鹿の『あし湯』など教えてもらいませんでしたね

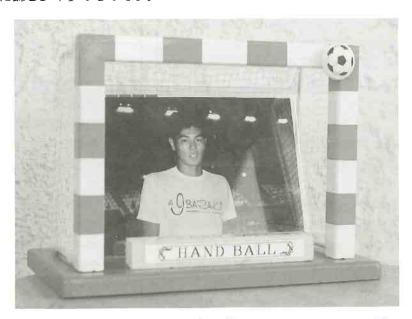
A：焼酎と馬刺とラーメンに忙しくて、そんな時間はなかったでしょうに。

Q：スポーツは文化、まさに国境を越えた交流の手段ですね

A：そう思います。まだ東西の緊張の時代に何度もソ連をはじめ、東欧諸国をほとんどノーチェックで歩けたのも、スポーツならではの貴重な体験でした。

Q：クロアチアや旧ユーゴの人にも読んでもらいたいですね

A：そう思はないでもないのですが、とりあえず東京のクロアチア大使館には贈りました。

井さん、どうもありがとうございました。

日本ハンドボール協会公認 J級指導員規程

第１条　設置目的

・我が国におけるハンドボールの普及、振興のため、特に15歳以下の青少年を対象として、ハンドボールの楽しさと技術を教え、かつ、スポーツ文化としてのハンドボールを次世代へ伝えることを目的として、これまでの、文部科学省、日本体育協会公認のコーチ、スポーツ指導員等の他に、新たに（財）日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員を設置する。

第２条　責務

①（財）日本ハンドボール協会公認指導員としてハンドボールの普及・振興を第一の責務と自覚し誠意と熱意を持って行動しなければならない。

②ハンドボールの持つ特性を十分活用して、15才までの青少年の身体的、精神的な発達特性を理解し、一人一人の持つ能力を十分に引き出す指導力を保持するため、常に研修に努めなければならない。

③（財）日本ハンドボール協会公認J級指導員証を常に携帯し、その活動を記録し求めに応じて提示できるようにしなければならない。

第３条　資格の認定

（財）日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員の資格は、各都道府県ハンドボール協会の推薦を受け、下記の項目を満たす者に（財）日本ハンドボール協会が与える。

①高等学校以上でのハンドボールチームに２年以上所属し、活動した経験を持つ者、または、15歳以下の少年を対象としたハンドボールの指導経験を１年以上持つ者で、ハンドボールの指導普及に熱意のある者。

②別に示す（財）日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員の資格認定講習を受講した者。

③ハンドボールの技術、指導力の向上のため研修と研鑽に努め、2年に1度は（財）日本ハンドボール協会の指定する講習会等に参加できる者。

◆他スポーツ団体の公認資格を有する者は、各都道府県ハンドボール協会が①、③の項目を満たす者と判断し、推薦することにより、資格が与えられる場合がある。
（他スポーツ団体の公認資格とは、当面スポーツ少年団指導員資格を指す）

第４条　資格の登録

上記「資格の認定」を満たすと認められた（財）日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員の所属する各都道府県ハンドボール協会は、各年度毎に新たに公認Ｊ級指導員資格を取得した者をとりまとめ（財）日本ハンドボール協会へ登録をしなければならない。また、既公認Ｊ級指導員資格取得者の活動状況についても報告をしなければならない。
登録をした者に対しては（財）日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員証を交付する。
付則 1 本規程は、平成13年12月８日に制定し、平成14年３月１日に発効する。

日本ハンドボール協会公認 J級指導員認定講習内容

・本認定講習の実施は、（財）日本ハンドボール協会が示す「（財）日本ハンドボール協会Ｊ級公認指導員資格認定講習内容（ガイドライン）」に沿って各都道府県ハンドボール協会が行うものとする。

・本認定講習は、全体を6時間完了とするが、この時間を超えて実施することは何ら支障はない。また、実施期間は長くとも１ヶ月を越えて行うことは、認められない。

（財）日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員資格認定講習内容（ガイドライン）

内容	時間
1 子供理解 ①7才～15才までの身体的、精神的発育に関する理解 ・筋肉、運動神経の発達、心肺機能の発達等について ・自己認識、集団意識の発達等について ・理解力の発達について（規則・規律の理解） ②スポーツ障害に関する理解 ・発育段階における運動障害について ・ハンドボールと運動障害について	1
2 活動の方法について （具体的な事例の提示） ①スポーツ教室設立の方法について ②指導内容について	1
3 活動中発生する事故への理解と対策 ①活動中発生する事故への傾向と対策について ・一般的な事故、ハンドボール運動での事故等 ②事故に対する責任と保証 ・過去の事例、配慮すべきこと ・スポーツ保険等について	1
4 実技 ・興味を持たせる（楽しく）基礎基本の動きの習得 ・理解し、自律できる練習法	3

スポーツ安全保険はみんなの安心をお約束します。

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

加入区分		掛金	傷害保険（保険金額）				賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
			死亡	後遺障害	入院	通院		
A	子供の スポーツ活動等 成人の 文化活動、ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	最高 3,000万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故5億円 （免責1,000円） 財物賠償 500万円 （免責1,000円）	突然死 140万円
B	老人の スポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
C	成人の スポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
D	山岳登はん、アメリカンフットボールなど	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

対象となる事故―― ●グループ活動中の事故　●往復途中の事故

保険期間―― 平成13年4月1日から翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

あいおい損害　朝日火災　共栄火災　住友海上
大成火災　大同火災　東京海上　日動火災
日産火災　日新火災　ニッセイ同和損害　日本興亜損害
富士火災　三井海上　安田火災

保険については東京海上を幹事会社として、上記損害保険会社15社との共同保険となっております。（2001年4月1日現在予定）

お問い合わせ

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館　TEL 03-3481-2431

財団法人 スポーツ安全協会

ホームページアドレス　http://www.sportsanzen.org

資料請求　FAX専用フリーダイヤル **0120-104442**（自動受付）

「加入依頼書（都道府県別）」、「団体員名簿」、「あらまし」、「事故通知はがき」のご請求の際、①資料内容（前記印刷物名）②必要部数③送付先の住所④氏名⑤電話番号をお書きのうえ、左記FAX番号宛お送り下さい。
なお、発送には多少日数がかかる場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ（http://www.sportsanzen.org）でも同様に受付しておりますので、ご利用下さい。

平成13年度　チーム・選手数一覧表

2002年2月5日作成

	一般Ｌ		一般Ａ		学　生		高　専		高　校		中　学		小学生		リージョナル		合　計	
	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数	チーム	人数
1　北海道	0	0	22	286	25	368	1	11	67	1,045	14	225	3	79	9	123	141	2,138
2　青　森	0	0	12	192	5	68	1	21	21	363	1	17	1	30	0	0	41	691
3　岩　手	0	0	10	155	3	32	1	24	44	873	30	803	0	0	18	246	106	2,133
4　宮　城	0	0	7	92	12	195	2	46	46	931	16	347	0	0	1	11	84	1,622
5　秋　田	0	0	8	124	2	27	1	18	12	243	5	109	3	64	0	0	31	585
6　山　形	0	0	12	161	1	17	1	28	18	377	7	102	0	0	0	0	39	685
7　福　島	1	15	9	118	3	42	0	0	38	616	20	510	1	15	0	0	72	1316
8　茨　城	0	0	12	173	4	60	0	0	54	843	28	539	7	146	8	112	113	1,873
9　栃　木	1	17	5	84	2	29	0	0	21	377	15	351	0	0	3	41	47	899
10　群　馬	0	0	8	134	0	0	0	0	17	289	17	372	1	64	3	35	46	894
11　埼　玉	1	18	14	215	6	69	0	0	93	1,573	33	648	0	0	0	0	147	2,523
12　千　葉	0	0	11	184	8	128	0	0	59	883	26	407	3	60	9	133	116	1,795
13　東　京	1	23	12	226	43	673	2	33	139	1,810	24	332	2	28	49	897	272	4,022
14　神奈川	0	0	17	236	13	187	0	0	151	2,313	65	904	0	0	15	227	261	3,867
15　山　梨	1	15	4	67	5	55	0	0	25	427	13	279	2	80	9	114	59	1,037
16　新　潟	0	0	5	64	4	60	1	12	12	215	0	0	0	0	1	7	23	358
17　長　野	0	0	6	98	1	17	0	0	29	439	11	216	2	63	0	0	49	833
18　富　山	1	15	12	158	3	37	1	21	28	409	33	658	7	104	1	13	86	1,415
19　石　川	1	19	8	128	3	46	1	15	22	335	26	657	0	0	1	22	62	1,222
20　福　井	2	23	4	53	2	22	1	22	20	396	15	307	7	312	3	25	54	1,160
21　静　岡	0	0	14	171	4	48	1	14	48	929	6	168	0	0	1	10	74	1,341
22　愛　知	5	79	10	157	27	441	1	38	242	4,563	153	3,270	11	198	0	0	449	8,746
23　三　重	1	17	8	123	3	33	1	15	36	548	33	706	5	70	0	0	87	1,512
24　岐　阜	1	11	14	222	3	39	1	19	58	1,007	54	1,137	1	30	3	46	135	2,511
25　滋　賀	0	0	7	105	3	44	0	0	22	419	13	311	0	0	2	23	47	902
26　京　都	0	0	9	124	15	194	1	22	39	626	14	272	10	381	21	189	109	1,808
27　大　阪	1	11	13	202	29	430	1	19	103	1,211	30	516	3	68	1	16	181	2,473
28　兵　庫	0	0	7	103	12	175	1	14	87	1,246	31	713	3	45	8	130	149	2,426
29　奈　良	0	0	6	76	4	50	1	19	28	407	22	432	3	63	0	0	64	1,047
30　和歌山	0	0	6	86	2	23	1	17	23	343	17	369	1	32	4	53	54	923
31　鳥　取	0	0	4	58	1	14	1	22	15	215	6	117	0	0	1	11	28	437
32　島　根	0	0	2	25	1	12	1	23	10	178	2	28	0	0	0	0	16	266
33　岡　山	0	0	12	159	7	94	1	21	51	913	13	308	0	0	4	42	88	1,537
34　広　島	2	35	4	74	6	85	1	10	22	323	9	180	1	30	6	90	51	827
35　山　口	1	11	16	213	1	10	2	39	34	656	23	536	3	68	2	35	82	1,568
36　香　川	0	0	4	56	2	22	0	0	25	382	22	462	3	57	0	0	56	979
37　徳　島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38　愛　媛	0	0	7	113	3	45	0	0	33	684	4	69	1	19	0	0	48	930
39　高　知	0	0	4	58	2	18	1	11	12	134	9	125	0	0	9	79	37	425
40　福　岡	0	0	5	80	15	257	2	48	56	879	21	409	0	0	0	0	99	1,673
41　佐　賀	1	15	6	88	0	0	0	0	11	150	5	88	0	0	0	0	23	341
42　長　崎	0	0	7	128	2	21	0	0	30	642	19	302	4	88	0	0	62	1,181
43　熊　本	2	42	3	45	4	40	2	52	54	927	42	745	21	493	0	0	128	2,344
44　大　分	0	0	8	103	2	23	0	0	15	216	12	206	14	200	0	0	51	748
45　宮　崎	0	0	3	52	2	9	1	30	35	488	21	281	8	149	7	94	77	1,103
46　鹿児島	1	15	5	65	3	37	1	26	33	550	14	318	2	25	3	38	62	1,074
47　沖　縄	0	0	12	173	4	54	0	0	80	1,265	60	1,379	20	345	18	244	174	3,460
合　計	24	381	394	5,807	302	4,351	35	710	2,098	34,659	1,054	21,230	153	3,406	220	3,106	4,280	73,650

お知らせ　お知らせ　お知らせ　お知らせ　お知らせ

平成13年10月6日

加盟団体会長　様

（財）日本ハンドボール協会
会長　米倉　功

平成14年度以降登録金改定の決定について〈通知〉

拝啓、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成14年度以降チーム並びに個人登録金について、平成13年6月9日開催の第1回理事会並びに、平成13年6月23日開催の第1回評議員会において、別表のように決定、承認されましたので、ご通知申し上げます。

なお、この件につきまして、参加加盟チームに周知方よろしくご配慮お願い申し上げます。

末尾ながら貴団体の益々のご発展を祈念いたします。

敬具

種別		平成13年度		平成14年度	値上げ幅
一般L、	チーム	620,000円	→	700,000円	80,000円
	個人	1,000円	→	1,500円	500円
一般A、	チーム	30,000円	→	35,000円	5,000円
	個人	1,000円	→	1,300円	300円
大学	チーム	16,000円	→	17,000円	1,000円
	個人	500円	→	600円	100円
高専	チーム	9,000円	→	10,000円	1,000円
高校	チーム	9,000円	→	10,000円	1,000円
中学校	チーム	0円	→	2,000円	2,000円
リージョナル	チーム	3,000円	→	5,000円	2,000円
	個人	300円	→	600円	300円

平成14年2月7日

各都道府県協会理事長　様

（財）日本ハンドボール協会
会長　米倉　功

平成14年度以降中学校チームへの登録金徴収について（依頼）

日頃は、（財）日本ハンドボール協会の各種事業にご理解ご協力を頂き、心からお礼申し上げます。

さて、表記の件につきましては、平成13年10月6日付の文書でお知らせいたしました通りであります。

しかしながら、中学校を取り巻く現状は

・ 学校5日制開始に伴う生活時間帯の見直し

・ 生徒数減少、教員の高齢化等による課外部活動の見直し

・ 教育予算、PTA予算等の削減

等々、ハンドボール部活動を維持推進してゆくためには決して良い条件とはいえない課題が山積しております。

しかし、全国中学校体育連盟は本年度より日本体育協会に加入し、中学校の体育的部活動の活性化と発展を目指しています。

つきましては、貴協会傘下の中学校チームに対する登録金徴収に際しましては、学校側に、ハンドボール全体の発展と、中学生に対する大会開催、指導者の育成等々、協会としての使命と役割を十分に理解して頂くよう、格別のご配慮をお願いいたします。

がんばれハンドボール10万人会 サポート会員登録状況

平成13年2月～平成14年1月会員

平成14年1月31日現在

県番	県名	A	B	C	合計	県番	県名	A	B	C	合計
1	北海道	1	6	11	18	25	滋賀		1	2	3
2	青森		2	5	7	26	京都		5	9	14
3	岩手		6	10	16	27	大阪	1	32	82	115
4	宮城		5	3	8	28	兵庫		8	15	23
5	秋田		3	19	22	29	奈良		8	1	9
6	山形		2		2	30	和歌山		3	2	5
7	福島		3	64	67	31	鳥取			5	5
8	茨城		8	16	24	32	島根		1	1	2
9	栃木		5	12	17	33	岡山	1	6	4	11
10	群馬		3	4	7	34	広島		10	36	46
11	埼玉		9	4	13	35	山口		5		5
12	千葉		15	16	31	36	香川		3	7	10
13	東京	2	39	19	60	37	徳島		1		1
14	神奈川	1	23	8	32	38	愛媛	1	4	63	68
15	山梨		9	12	21	39	高知			10	10
16	長野		2	12	14	40	福岡	1	8	9	18
17	新潟			3	3	41	佐賀		2		2
18	富山		6	9	15	42	長崎		9	8	17
19	石川		10		10	43	熊本		11	1	12
20	福井	1	9	4	14	44	大分		2	10	12
21	静岡			25	25	45	宮崎		1	11	12
22	愛知	2	23	11	36	46	鹿児島		2	1	3
23	三重	1	10	132	143	47	沖縄		2	6	8
24	岐阜		5	34	39		合計	12	327	716	1055

会員種別：A＝特別会員　B＝グランド会員　C＝ファミリー会員

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会

●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

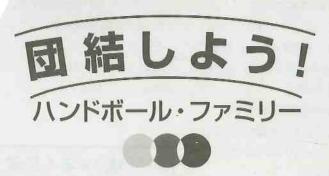
■登録増によるメリット

● メジャースポーツとして認知
● 登録金の増収

● スポンサーがつく
● 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実
○ 小・中学校の普及
○ ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
○ ミニハンドボール競技の導入
○ ジュニア層の重点強化
○ 各大会の補助金アップ
○ 国際大会の招致
○ 一貫指導体制の確立

団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

協会だより

平成13年12月度 常務理事会

［日　時］平成13年12月8日（土）
［場　所］東京体育館　第1研修室
［出席者］山下副会長、大西専務理事
常務理事7名、理事1名、監事2名
参事3名、事務局2名

議題

1、協賛会社紹介

シーアンドエスが、平成14・15年度協賛会社となることが決まった。

加盟団体にもシーアンドエスの存在を周知徹底する。

2、平成14年度予算案策定について

日本リーグから4チームが脱退し、5チームとなることから収入はマイナスとなる。

予算案の詳細については1月常務理事会で話し合う。

3、スポーツ振興くじ

助成基準についての資料配布。今後スポーツ振興基金は存続するが、国庫補助が少なくなって行くため、トトの助成を受けることは重要。協会としてしっかりした方針を持つことが重要。

4、がんばれ10万人会

10万人会ニュース第3号を発行。会員は2回目の催促で95％が継続。ニュース掲載決算報告の説明。

「大阪10万人会」「三重10万人会」など、都道府県での活動ができないかとの意見に対し、まだそこまで状況が到達していないが、将来的には考慮したいと、推進委員会の返答があった。

5、2004年オリンピック予選正式発表

12月7日受信のAHFニュースに、2003年9月20日～30日に開催する旨発表があった。

6、中国からの提案について

中国協会からの提案について紹介。

日中交流リーグ戦の提案については、日中、日韓個別にリーグ委員会と強化委員会で検討する。

7、東アジア協議会について

日・韓・中（・台）の3ないし4カ国で、2002年4月アジアナショナルサーキット時に協議会を持つ（常務理事会承認済）ことで、日本での宿泊費等、国内費用は日本負担とし、JOCからの補助が可能であれば利用していくこととなった。また、アジアのスポーツ後進国をプレーオフや総合に招待する提案があった。

8、マーケティング委員会について

未定となっている学連、高体連、中体連からのメンバーを人選依頼する。第1回会議を1月中に開催予定。

9、プロジェクト21について

将来に向けてのビジョン構築のため、これに対する意見を常務理事会に提出、2月修正案、5～6月成案とのスケジュールで進めることを確認。

10、全日本総合将来構想について

将来計画として以下の提案があった。

・出場枠――リーグ以外を4区分16チームとする
・大会形式―全国展開

競技運営連絡会議、委員会にて継続審議する。

11、裁定委員会について

IHF規則の例に倣い、一定金額を支払って審議するようにしたいとの提案。日本リーグとも連携を取り、2月理事会で決定の方針。

12、第10回JOCジュニアオリンピックカップについて

有望選手選考委員を承認。

13、アジア選手権件WC予選選手団団長について

専務理事と強化部長で検討、決定は専務理事に一任

14、外国人コーチについて

全日本男子コーチのスタニラフ・コワルスキー氏の契約見直しにあたり、フレデリック・ヴォル氏を起用。コワルスキー氏との契約は2002年3月末で終了。

クーリンチェンコ氏については、日本協会とホンダの間で再度調整することとした。

15、日本リーグ日程変更

2月にイランでのアジア選手権兼WC予選が急遽確定したことにより、日本リーグ日程変更に至った経緯を説明。

16、コーチレフェリーシンポジウムについて

コーチレフェリーシンポジウムは、日本リーグ開催中とはなったが予定通り3月8日～10日に開催する。

17、高円宮殿下のお成りについて

日本リーグを高円宮殿下がご観戦されることが決定。日本リーグ担当常務理事を中心に準備する。

平成14年1月度 常務理事会

［日　時］平成14年1月12日（土）
13：00～17：00
［場　所］明治神宮会館　特別会議室
［出席者］山下副会長、岩井特任副会長
大西専務理事、常務理事7名、理事1名
監事2名、参事2名、事務局3名

議題

1、平成14年度事業計画案について

資料に基づき、各担当常務理事より説明、案の通り承認された。

以下の意見があった。

・日本協会にとって今一番大切なのは人材育成

・底辺の底上げが大切

・強化について、評価システムを持つ必要がある

・10万人会の自動引き落としに付加価値がある筈、問題を見直し考えてほしい。

2、平成14年度事業予算案について

資料に基づき説明があり、案どおり承認。

3、10万人会について

サポート会員数及び全日本総合時の入会受付報告

4、プロジェクト21について

アテネ特別強化委員会は、平成14年3月末をもって発展的に解消し、日本協会内の組織定着化を図って欲しいとの提案あり。

プロジェクト21構造改革の実行体制について、2案の説明があった。いずれかの方向に決めて欲しいとの要望があり、このテーマに絞った討論会を1月中に持ち方向性を決めることとなった。参加メンバーは専務理事に一任。

プロジェクト21の都道府県協会及び各連盟へのプレゼンテーションはすでに7箇所終了。残りを2月中に廻り、手直しをして計画完了としたい旨説明があった。

5、日本リーグ関係

高円宮お成りについて、資料に基づき報告があった。

日本リーグ日程変更及び前半戦成績の報告があった。

6、タラフレックス保管場所の変更について

ホンダアクティブランドへ持っていくこととなった。

7、全日本総合選手権構想について

構想案の説明があり、更に競技運営委員会で検討を進めることとする。

8、国体ブロック割り当て数について

平成14年度国体ブロック割り当て数について了承した。

9、登録について

資料に基づき説明があり、承認された。

10、全日本実業団チャレンジ2002開催について

資料に基づき説明があり承認された。

11、第15回女子世界選手権報告

資料に基づき報告があった。

12、第10回JOCジュニアオリンピックカップ報告

資料に基づき試合結果報告があった。

13、男子欧州遠征試合報告

資料に基づき欧州（フランス）遠征の試合結果報告があった。

14、U—19男女選手選考結果報告

資料に基づき選考結果報告があった。

15、ハンドボール海外留学説明会

資料に基づき開催要項の説明があった。

16、2004年アテネオリンピック予選開催地について

自治体に対する働きかけも正式に行う時期に来ているので、日本協会として対応を早急に行う。

17、日本リーグ加盟チーム登録金について

特別登録金請求の文案説明があり、再検討することとなった。

18、外国人コーチについて

資料に基づき契約案の説明があり、案の通り承認された。

19、アジア選手権兼2003年世界選手権予選暫定登録選手について

資料に基づき暫定登録選手名簿、ドロー結果、試合日程の説明があった。

20、女子強化について

資料に基づき、全日本代表チーム、U−19監督をそれぞれ依頼中であることを説明。

21、マーケティング委員会について

資料に基づき、メンバー及び活動方針案の説明があった。

22、スポーツ振興くじ助成交付要領について

資料に基づき助成交付要項概要の説明があった。これについての責任体制が報告された。

23、旅費規程改定について

資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

24、その他

NTSと指導委員会の打ち合わせ会について、今後NTS、強化、指導の三者合同会議を行っていくこととなったことの報告があった。

「がんばれハンドボール10万人会」1月新規入会・継続更新会員の紹介

【山　形】五島訓二
【群　馬】小須田定夫
【茨　城】岡本大、滝川一徳、西村香代子、森田正春、横地成典、蒲生美、蒲生庄吾
【山　梨】小沢三紀夫
【三　重】小川英子、細野健一郎、細野美紀子、田口隆、田口麻由美、田口亮、田口大貴、萩田浩美、細野かづへ、北村元勝、川岸光男、小川信、中谷茂樹、尾崎直司
【愛　知】森本雅良
【京　都】石井惇史
【大　阪】長嶺利昭
【愛　媛】山本耕一、山本千絵、山本菜緒、正岡勝英
【福　岡】福田英明
【大　分】疋田忠
【熊　本】津田修、中川光明

【お詫びと確認】

過日、都道府県協会宛に発送いたしました「がんばれハンドボール10万人会サポート会員募集」案内の一部に、ファミリー会員特典の記載ミスのあるものがありました。一部の皆様に御迷惑をおかけし、混乱を生じさせてしまいました。ここにお詫びし、下記のように従来通りであることを確認させていただきます。

ファミリー会員の主な特典：会員証、会員バッチ、ペアチケット１枚　（ミスプリントの部分）

今後とも、「がんばれハンドボール10万人会」の趣旨をご理解の上、サポート会員へのご加入をお願いいたします。

【3月の行事予定】

〈会　議〉

★３月９日(土)
常務理事会　東京

★３月８日(金)～10日(日)
平成13年度コーチ・レフェリーシンポジウム
東京・オリンピック記念青少年総合センター

〈大　会〉

★３月16日(土)～17日(日)
第26回日本リーグプレイオフ　東京・駒沢体育館

★３月23日(土)～28日(木)
第25回全国高校選抜大会　富山・氷見市

★編集後記★

◇機関誌編集委員を引受けて早４年目、日本スポーツ界に「ハンドボール文化（人生を豊かにし、後世に継承されるもの）」を定着させる事が私のハンドボール人生の目標です。そのため、小中学校の競技人口の拡大と組織化が重要であり、一昨年より機関誌の中で「小学生チームの活動」を掲載、又前回号からは新たに「中学生チームの活動」の連載を始めました。今回のシリーズでは、指導者々が日頃感じている「思い」も含め「競技人口の拡大」及び、「ハンドボール文化の定着」に向けての提言等を頂くことにしました。

◇日本体育協会・公認スポーツ指導員（平成13年10月１日現在）の「地域スポーツ指導員（Ａ／Ｂ／Ｃ級合計）」は、全競技単位で70,534人ですが、ハンドボール競技は僅か364人、若年層の普及拡大には地域の指導員確保が必須です。

◇ハンドボール界全体で取組む課題は山積ですが、読者の皆さんと共に奮闘したいと思います。ご意見など機関誌委員会までお願い致します。　（近久紀人）

HAND BALL CONTENTS MAR

（登録チームの講読料は登録料に含む）

柔らかな感触で、最適なバウンド！

新発売

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

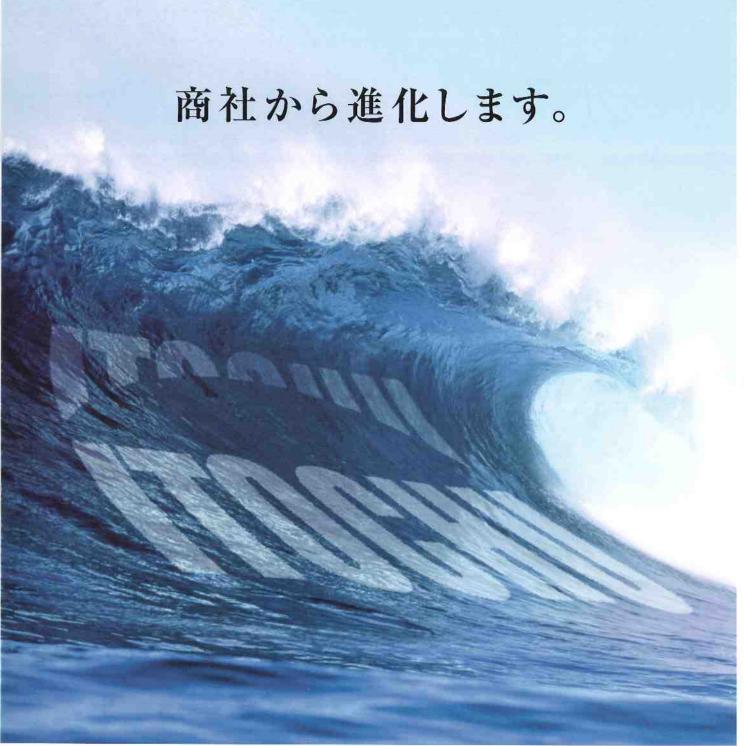
PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH2-ADR
2,700円

PKCH3-ADR
2,800円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

商社から進化します。

今、あなたの知らない伊藤忠商事が、動き始めました。
その目的は、ニュー・エコノミーゾーンを強化して、新たな産業を開拓していくこと。
そして、商社という枠に捕われることなく、全てのフィールドを見据えて、ビジネスを勝ち抜いていくこと。
商社を超えて"戦略的企業集団"へと進化する伊藤忠商事。その可能性は、まだまだ無限大です。

伊藤忠商事株式会社

URL http://www.itochu.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第四二七号
昭和四十年六月七日　第[illegible]種郵便物認可
平成十四年二月二十六日印刷　平成十四年三月一日発行
東京都渋谷区神南一−一−一
電[illegible]代表　三四八一−一三六一
振[illegible]〇〇二〇−七−〇二九三
編集兼発行人　大西武三
定価　年間三三〇〇円（一冊三〇〇円）